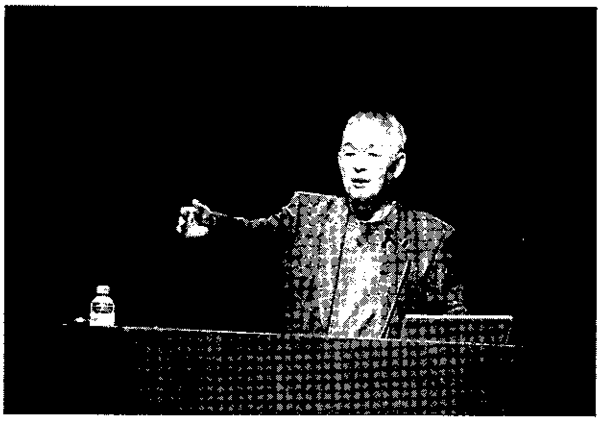
心に残る言葉がいっぱい！

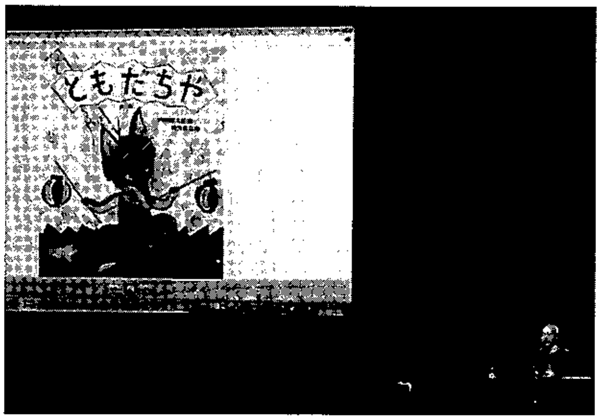
満足度95%
アンケート結果にて
満足・だいたい満足を選択

全体講演会　「わた詩の絵本」

【講師】　内田麟太郎さん（絵詞作家・詩人）

ユーモアあふれる独特の話し方で会場に笑いがあふれていました。内田さんは、看板職人をしていた際に大きな怪我をされたことをきっかけに児童書を書き始められました。多くの人に読まれる作家になるための近道として、絵本作家とともに絵本を出版することを提案され絵詞作家の道を歩まれたそうです。絵本には、見せ場が必要とこれまで児童文学では考えなかった視点に気づかされ「さかさまライオン」の出版に至りました。「がたごとがたごと」では、友人や恩師の先生に「あれぐらいなら自分にもかける」などの言葉をかけられたそうです。しかし実際には場面の様子が分かるト書きも内田さんが書いており、絵本作りというのは舞台などの脚本を書くことに似ているという話を聞き、絵本づくりの様子・大変さを知ることができました。作品作りの時には「あほになる」と話され会場は笑いで包まれました。創作活動というのは、根をつめて取り組んでもきっと良い作品は生まれない、「あほになる」くらいが豊かな発想をうむのだということだろうと納得させられました。最後には「なみ」の詩を提示され「これが国語の教科書に載るかもしれない。日本の先生はどうかしている。」と笑いを誘いました。「へ」がならんだ様子を波に例え、海が笑っているとした詩ですが、内田さんのユニークな視点が生み出した内田ワールドの作品であり、詩というものを新たな形で楽しむことのできる作品だと感心させられました。心に響く楽しい講演に盛大な拍手が送られました。





参加者の感想

- 内田先生のお話が聞きたくて参加しました。本当に楽しくて感動しました。子育てにユーモアは必要だと改めて思いました。
- 教員ではない方の生き方・生き様を聞かせていただくことは、自分の生き方を振り返るためにもとても有意義です。しかも楽しいお話はとてもうれしいです。
- 学校ではお会いできない自由な発想をおもちの先生で楽しくお話を聞くことができました。やわらかい頭をもちたいものですね。
- 内田さんのお話がとても面白く本当に楽しませていただきました。自分を解放すること真面目もナンセンスも愛することを、自分にもこれから出会う人、子どもにも伝えていきたいと強く思いました。